

オンラインプラットフォームについて

2022年7月4日

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課

関連する主要なプラットフォーム事業

- 既に自治体、民間企業問わず、様々なプラットフォーム事業が行われているが、より高齢者にとって活用しやすい施策とするためには、幅広い社会参加活動を対象にした施策とすることや、デジタル活用によるマッチング支援が求められるのではないか。

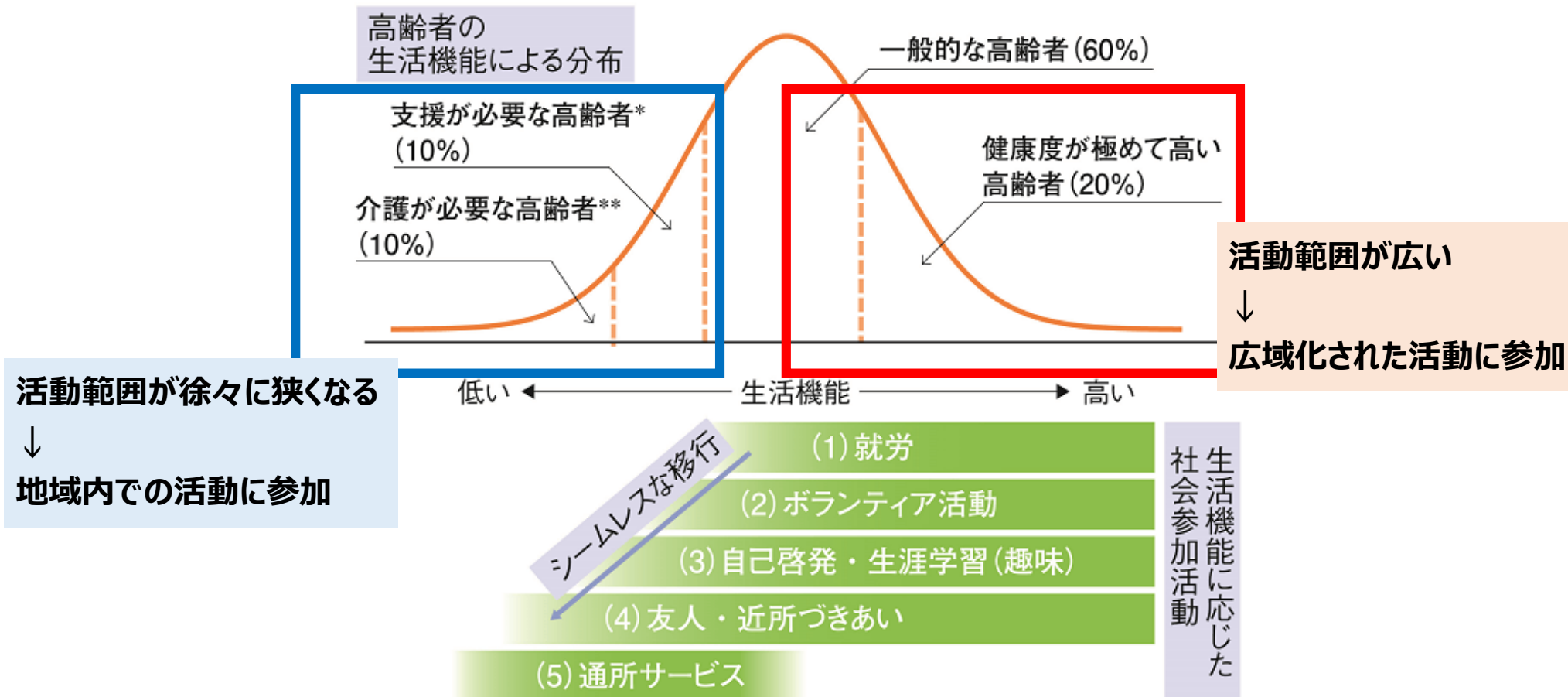
	情報提供	申込・参加受付	紹介・マッチング	金銭やポイントの受取り・支払い	デジタル活用によるマッチング支援
就労的 活動	民間企業多数 (シニアカテゴリ有)			民間企業多数	2 ・都内全域のシニア・プレシニア向けの社会参加活動情報を一元的に集約するオンライン上のプラットフォームが有効ではないか。 ・シニア・プレシニアが興味のある活動、スケジュール、活動地域等の情報を登録し、活動が自動的にレコメンドされる等の機能によって双方向のマッチングが可能であれば更に効果的ではないか。
	東京しごとセンター				
	TOKYOはたらくネット				
	シルバー人材センター (各市区町村)				
	世田谷版GBER (世田谷区)				
ボランティア	シニア向けボランティアコーディネートYELL (社会福祉法人奉優会)				
	(プロボノ) 東京ホームタウンプロジェクト				
	東京ボランティア・市民活動センター				
	東京ボランティアレガシーネットワーク				
	ボランティアセンター			ボランティアポイント	
自己啓発・ 趣味活動	三鷹いきいきプラス (三鷹市)				
	シブカツ (渋谷区) ※ボランティアも対象				
	老人クラブ (各市区町村) ※ボランティアも対象				
	民間企業多数				
	高齢者活動センター				
友人との 交流	ふれあいサロン・通いの場				1 就労、ボランティア、自己啓発・趣味活動等の種類を問わず、幅広い活動を一元的に対象とすることで、シニア・プレシニアにとって利便性の高いプラットフォームとなるのではないか。

※就労とボランティア、ボランティアと自己啓発・趣味活動は明確に区別されるものではなく、どちらの活動とも捉えられる社会参加活動も多くある。

幅広い社会参加活動を対象とする意義

- 年齢が若く、健康度が高いシニア・プレシニアは就労を希望するケースが多く、活動範囲も広い傾向にある。一方で、生活機能が低下していくと、ボランティア、趣味活動にシームレスに移行していき、活動も地域内で完結する傾向となる。
- これらの事情を踏まえると、活動の種類を問わず東京都のシニア・プレシニア向け活動情報を一元化することや、区域外の活動もプラットフォーム事業の対象とする広域的取組が必要であると考えられる。

プレシニア、シニアの生活機能（=健康度）による分布と社会参加活動の枠組み



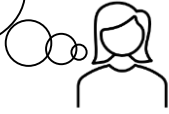
(出所) 東京都健康長寿医療センター 藤原 佳典 地域高齢者における社会的フレイルの概念と特徴～社会的側面から見たフレイル～を基に日本総研作成

対象となるシニア・プレシニアのイメージ

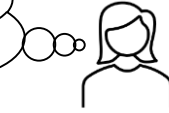
- 対象としては、社会参加を希望するが、どんな活動を行いたいかわかっていないシニア・プレシニアを想定している。オンラインプラットフォームに条件を入力することで、おすすめの活動がリストアップされ、その後、必要に応じて問い合わせ等の相談を行った上で、興味のある活動に申し込む流れとなる。
- 一方、週4～5日で就労を行いたい等、明確に希望がある場合、各活動の情報をとりまとめているwebサイト・施設にアクセスし、活動とマッチングすることが望ましいと考えられる。

シニア・プレシニアの悩み

空いている時間に何かしたいけれど、どんな活動が自分に合っているのかわからないなあ。



ボランティアに参加したいけど、自分にどんなことが出来るかわからないなあ。



年金収入だけで生活が苦しいので週4～5日で働きたいなあ。



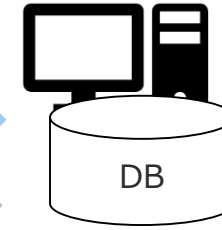
活動を探すプロセス

条件を入力

おすすめの活動をリストアップ
(問い合わせ等の相談)

活動に申込み

オンラインプラットフォーム



DB

定期的に行われている活動への初めての参加

不定期に実施しているイベントへの参加

(一部連携)

各活動のサイト・施設にアクセス

おすすめの活動をリストアップ
(問い合わせ等の相談)

興味のある活動に申込み

各活動のサイト



ボランティアレガシーネットワーク

ボランティアセンター

東京しごとセンター

ハローワーク

【オンラインマッチング事例】世田谷区×GBER

- 世田谷区では、令和3年度に、就労を希望する高齢者と地域の事業者をつなぐ情報プラットフォームとして東京大学先端科学技術研究センターが開発したGBERを活用したモデル事業を実施。
- 令和4年度からは世田谷ボランティア協会にて、「世田谷版GBER」としてボランティアのマッチングサイトが運用開始。

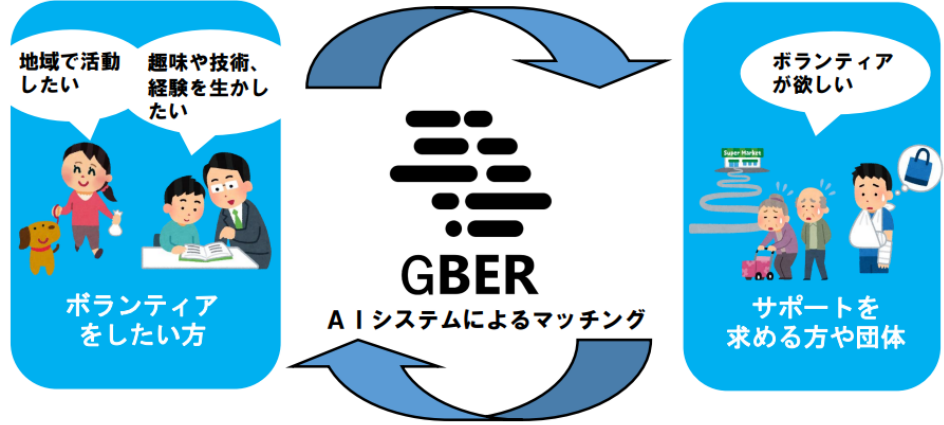
概要

- GBERとは、「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを結び付け、ボランティア活動を支援する、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト。
- 世田谷区では、シニアと地域の事業者が出会い、「地域」から新しい働き方を実現していくことを目指し、令和3年にGBERを活用したモデル事業を実施。令和4年度からは世田谷ボランティア協会にて、「世田谷版GBER」としてボランティアのマッチングサイトの運用が開始されている。

令和3年度モデル事業について

- 令和3年1~12月のモデル事業時間に、86名の参加者が登録。多様な経験や専門性を持った方々が参加。
- 利用者は、GBERにプロフィール等を登録。仕事を検索し、関心のあるものに応募し、各事業者による選考を経て受理された場合には業務に従事する。
- モデル事業参加の目的は、「自分のこれまでの経験値や専門性を活かす」「家の近くでやれる仕事」といった回答が多くみられた。
- 事業者側では、27社の事業者が参加し、75件の募集案件が掲載された。分野としては、介護、子育て、障がい者支援といった福祉分野が70%と最も多かった。
- マッチング利用者からは「工事現場で働くことは初めてで、建設業界の習慣や仕事の進め方など、知らないことが多く、興味深かったです」「自分の得意なことを活かす仕事に出会えたこと、また家の近くの福祉施設のみなさんの働く思いに触れることができました。」といった声が聞かれた。

GBERの利用イメージ（世田谷ボランティア協会）



GBERは「5つのタブ」で構成されており、これらを切り替えることで様々な機能を利用することができます。

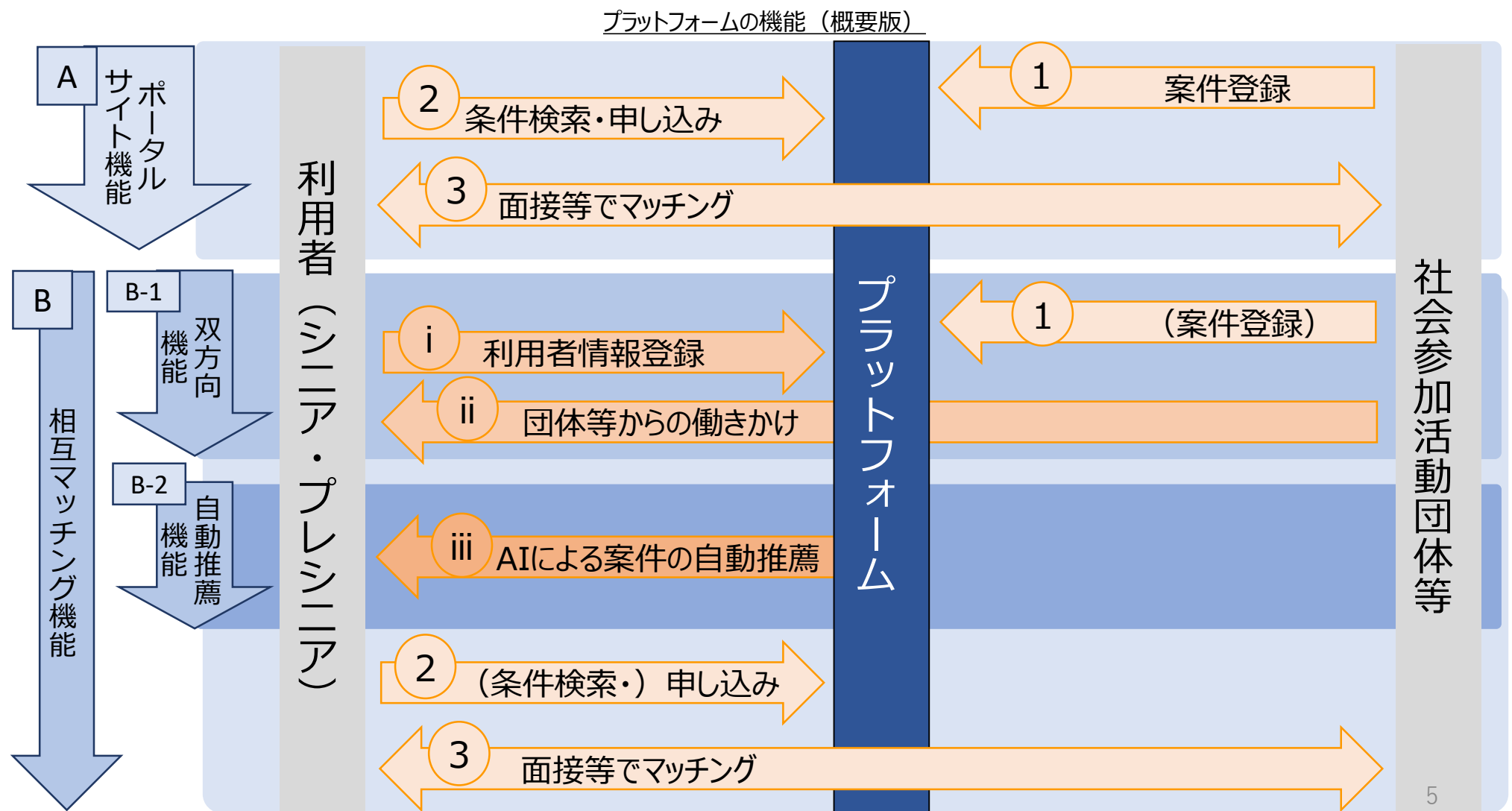
The image shows a screenshot of the GBER app interface on the left, displaying a search result for 'ボランティア' (Volunteer) with details like dates and location. To the right, a list of five tabs is shown:

- ホームタブ** (Home Tab): おすすめの活動やお知らせの確認などを行うことができます。 (You can check recommended activities and announcements.)
- マイページタブ** (My Page Tab): 申請中の活動などの確認やプロフィールを編集することができます。 (You can check activities in progress and edit your profile.)
- 応募タブ** (Apply Tab): ボランティア活動に応募することができます。 (You can apply for volunteer activities.)
- 予定表タブ** (Calendar Tab): 予定の確認や、予定を追加・削除することができます。 (You can check your schedule, add, or delete it.)
- 通知タブ** (Notification Tab): 管理者が発信した情報を確認することができます。 (You can check information sent by administrators.)

 The GBER logo is at the bottom right of this section.

プラットフォームの機能（概要）

- プラットフォームの機能は（A）ポータルサイト機能、（B）相互マッチング機能に分類される。
- さらに、相互マッチング機能は、（B）-1.利用者情報登録を行うことによって団体等からの働きかけを可能とする双方向機能と（B）-2.AIによる案件の自動推薦機能に分類される。



将来像と将来像に向けたプロセス（案）

【将来像】

相互マッチング機能を有するオンラインプラットフォームを構築し、都全域で広域的なマッチング事業を実施

【将来像に向けたプロセス】

案	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度はポータルサイト機能を有するプラットフォームを都が構築し、webサイトを運営する東京都と相談支援、社会参加活動の掘り起こしを行う区市町村の役割分担でマッチング事業を推進 ・その後、活動の登録状況やシニア・プレシニアの利用状況等を踏まえてwebサイトに相互マッチング機能の追加を検討
---	---

【その他の案と課題】

その他の案	利点・課題
来年度、都が相互マッチング機能を有するプラットフォームを構築	<p>(利点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア・プレシニアにとって、すぐにプラットフォームの相互マッチング機能を利用することができるとともに、早期立ち上げにより、データの蓄積が可能となり、よりマッチングの精度を高めることができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加活動の登録数が少ない場合、マッチングの成立件数が少なくなってしまう、結果として相互マッチング機能の必要性が疑問視される。
来年度、一部区市町村で相互マッチング機能を有するプラットフォームを構築し、その後、他区市町村に取組を広げていき、東京都全域で実施	<p>(利点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市区町村単位で、プラットフォームを立ち上げることで、現在各区市町村で行われている相談支援・活動の掘り起こし等の取組とうまく連携することができる。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治体独自の規格で進んだ際に、区市町村間での連携が難しくなり、広域的なオンラインプラットフォームとならない。 ・区市町村でのプラットフォームに対する進捗のばらつきが生じ、都全域での取組となるには時間を要する。